

とりふね舞踏舎

TORIFUNE BUTOH-SHA



— sai —

【京都公演】

日仏交流160周年記念事業認定・「平安舞踏派」旗揚げ記念公演

【期日】2018年10月13日(土)・14日(日)

開場=19:00 / 開演=19:30

【会場】アンスティチュ・フランセ関西・京都(外庭)

【東京公演】

とりふね舞踏舎<座・高円寺>公演

【期日】2018年10月18日(木)・19日(金)

開場=18:30 / 開演=19:00

【会場】座・高円寺2

●一般=前売 3,500円 / 当日 4,000円 ●学生=前売 3,000円 / 当日 3,500円 ●全席自由●

●チケット販売 = 京都・東京共通 ●発売日 = 8月15日(水)

【WEB予約】 <http://cofetti-web.com/> 【電話予約】 カンフェティチケットセンター 0120-240-540(平日10:00~18:00)

【チケット予約及び問合せ】 共通 = Tel/Fax: 0463-60-1008 (とりふね舞踏舎) e-mail: torifunebutohsha@hb.tp1.jp

京都 = Tel: 080-1191-6841 (平井) e-mail: okeeffe.in.mexico@icloud.com

東京 = Tel: 080-2432-5415 (岩木) e-mail: iwakisuzu@gmail.com

【出演】
三上賀代
平井紫乃
中井公
土居南音子
西尾美理
正學居士
松永将典
武市游
鐵羅佑
角津麻由
青山由佳
秋本真生
タスキ
小川あつ子
村上皇太后
沢田樹里

構成・演出: 三上宥起夫 / 振付: Yukio Mikami Kayo / 照明: 曾我傑 / 音響: 新明就太 / 衣裳: 北上亜矢
染: 辛島廣子 / ロゴ: 山内清城(和) 榎本了亮(英) / 舞台監督: 吉村聡浩 / 制作: とりふね舞踏舎(三上太朗)
後援 = 京都精華大学 協力 = テラヤマ・ワールド ポスターハリス・カンパニー 世界株式会社 / CEKAI 川添文子
www.torifune-butoh-sha.com



日仏交流160周年
160^e Anniversaire
des relations
franco-japonaises

1658
2018

H sai

- サイ -

「言」という文字の下の口に似ている「H」、サイは、白川さんが漢字研究のごく初期に独自に発見したことである。このサイは言霊の入れものをあらわしてしていた。

松岡正剛著「白川静」(平凡社新書)

Torifune
Butoh Sha



【三上賀代】-みかみ かよ-

舞踏家、徳島生。お茶の水女子大学国文科卒。学術博士(舞踊学)、京都精華大学教授。とりふね舞踏舎主宰。舞踏創始者・土方巽、野口体操創始者・野口三千三に師事。舞踏研究の先駆的著書『器としての身体—土方巽・暗黒舞踏技法へのアプローチ』(修士論文、'93、ANZ堂)、『15年』増補改訂『器としての身体』(博士論文)を春風社。'16年同著は英国Ozaru Booksより『The Body as a Vessel』英訳出版。とりふね全作品に主演。狂気を秘めた優美さに定評。

【とりふね舞踏舎】

'91年三上賀代によって解明された土方巽暗黒舞踏技法(お茶の水女子大学修士、博士論文)を指導原理として、元・劇団天井棧敷メンバーで作家・三上宥起夫によって湘南・茅ヶ崎に創立。92年旗揚公演『献花』以後、「舞踏のまったく新しい展開」と評価。米・露・仏・英・伊、他13ヶ国27都市にて公演。NYタイムズ他、各国新聞にて絶賛。傘下に一般市民からなる舞踏集団・湘南舞踏派(関東)、平安舞踏派(関西)。04年、活動拠点を神奈川県大磯に移し同地に野外劇場<黒金閣>設立。アトリエ公演、新人公演、合宿など積極的に活動を続ける。

【平安舞踏派】—関西デビュー公演!—

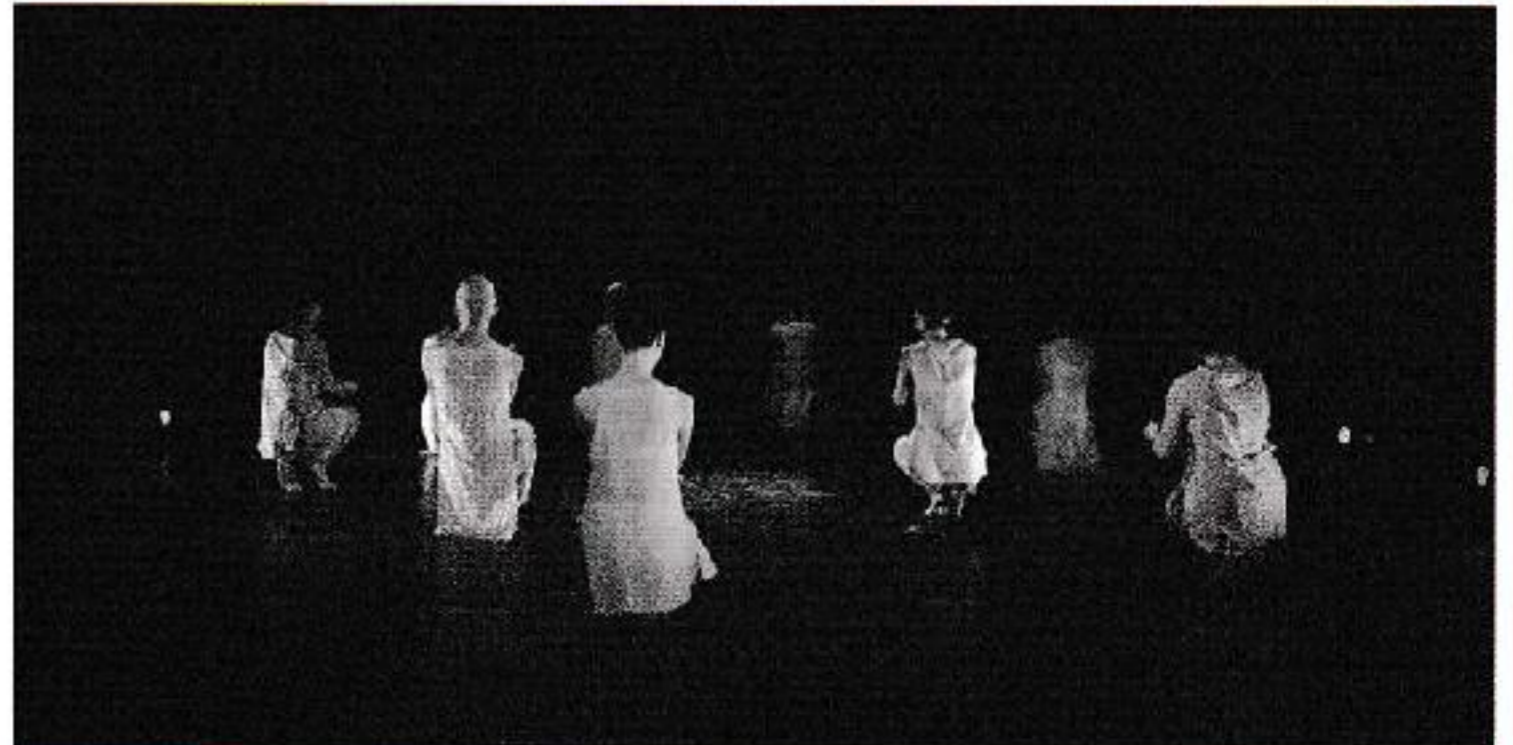
とりふね舞踏舎の傘下団体。京都精華大学大学生を中心に2001年に関西に結成。以来関東における傘下団体「湘南舞踏派」と共に、とりふね舞踏舎の国内外における舞踏公演の中核となる。平井繁乃を中心として関西において舞踏家養成を図るべく舞踏のワークショップを行う。全労済会館/スペース・ゼロ(新宿)、新国立劇場、座・高円寺、京大西部講堂、吹田市メシシアター等の国内、イタリア、イギリス、アイルランド、チェコ、スロベニア等のとりふね舞踏舎の海外公演『燦月譚』『鵲裡考』『ひのもと』『バッケ』『SAI』に出演。今公演の平安舞踏派の関西デビュー記念公演は、日仏交流160周年記念事業に認定された。



撮影：小野塚誠



撮影：小野塚誠



2011年、初演。

<とりふね舞踏舎の最高作>

『Sai』は<とりふね舞踏舎の最高作ではないでしょうか。極寒の下北半島の放牧馬“寒立馬”、恐山やあの周辺の霊性を強く感じました。墓が庭やあぜ道にあり、といった印象そこにある佇まい、祈りの形象…いいものを見ました>

……(『Sai』初演、お茶の水女子大学名誉教授、比較舞踊学会会長・森下はるみ)

<とりふね舞踏舎「献花」はホンモノだ>

舞踏派グループの活動では、三上賀代の“とりふね舞踏舎”は、かねてから私が一目置いている数少ない集団の一つである。過去「私が生まれた日」や「ひのもと—ある晴れた、冬の日のお母さま」などにみられる、計算された緻密な構成は、主宰・演出家である三上宥起夫の力も大きい。ブトー作品の憑依的無為のおどしではなく、見せる作品に仕上がっているところが、他と一線を画している。……突然崩壊して、実存の醜態をさらけ出すプロセスなど、ブトー本来の自虐的爪痕が、ほとんど無傷のまま見事に継承されている。もっばら魁異のスタイルだけに固執し、それを唯一の武器とする他の類似作とは比べものにならない

……(日下四郎『新ダンスの窓から』安楽城出版 2012年2月28日)



◎京都舞踏ワークショップ

料金：初回のみ 2000 円、以降は 1000 円

場所：京都市左京区【西部いきいき活動センター】

日時：毎月第1・第3水曜日 18:00～21:00

【連絡先】okeeffe.in.mexico@gmail.com 080-1191-6841(平井)

◎神奈川県大磯舞踏ワークショップ

場所：とりふね舞踏舎・野外稽古場<黒金閣> 期日：毎日曜日

時間：13:00～14:30(からたのほぐし) 15:00～17:00(舞踏)

【連絡先】torifunebutohsha@hb.tp1.jp

【三上賀代の著書】



春風社刊(2015)
info@shumpu.com



Ozaru Books, UK (2016)
http://ozaru.net/ozarubooks/vessel.html

【京都公演】

【期日】2018年10月13日(土)・14日(日)

開場=19:00/開演=19:30

【会場】アンスティチュ・フランセ関西・京都

〒606-8301 京都府京都市左京区吉田泉殿町8



【東京公演】

【期日】2018年10月18日(木)・19日(金)

開場=18:30/開演=19:00

【会場】座・高円寺2

〒166-0002 東京都杉並区高円寺北2-1-2

